

## 平成 19 年度油ヶ淵生物モニタリング調査概要 - 水生植物調査 -

- ・ 調査時期：平成 19 年 8 月
- ・ 調査範囲：湖岸全域及び水際
- ・ 結果

湖岸植生の分布状況の調査について、植物群落のうち面積の大きい群落の面積変化をみると、沈水植物のオオカナダモ群落は、平成 19 年度には 17 年度の面積の 4 割程度まで大きく減少したほか、水辺に分布するヨシ群落も経年的にやや減少傾向がみられた。一方、湖岸斜面など乾燥した土壤に分布するセイタカアワダチソウ群落及びオギ群落では経年的に増加傾向がみられた。

水際部の 5 測線で実施した詳細調査について、図 7 に測線の位置を、図 8～12 に平成 19 年度の調査結果を示す。

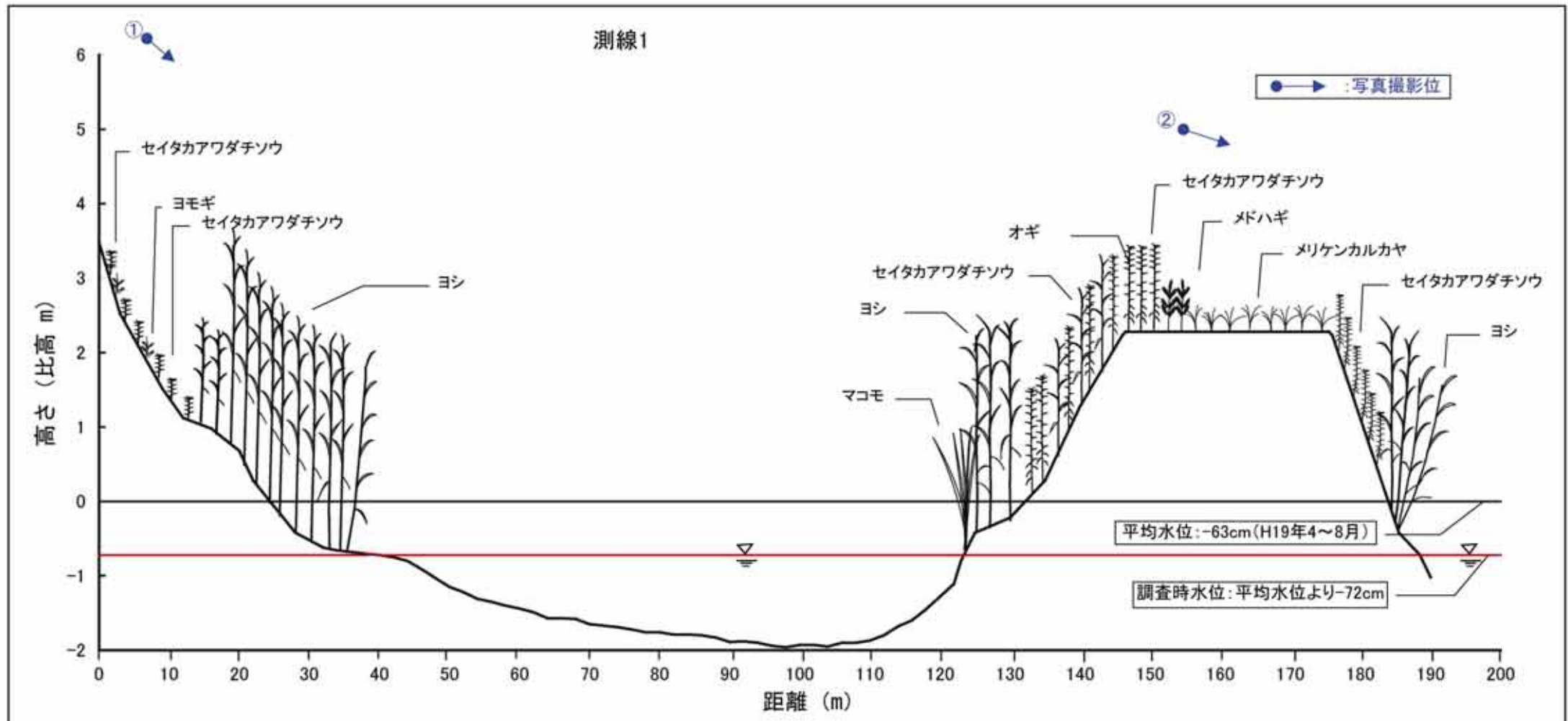
沈水植物については、測線 2 においてこれまで分布していたオオカナダモ、クロモが確認されなかったほか、測線 3, 5 においてもオオカナダモの分布域が狭くなっていた。

水辺に生育する抽水植物については、測線 1 ではヨシの生育範囲がやや陸側に広がり、測線 3 では逆に陸側の生育範囲がやや狭くなっていたが、その他の測線では大きな変化はみられなかった。

陸生植物については、測線 1 の人工島ワンド側において、平成 18 年度までセイタカアワダチソウが優占していた箇所にオギが混生するようになった。セイタカアワダチソウは先駆性の植物であり、人工島の造成後直ぐに優占したものと考えられるが、今後、同様な立地に分布するオギへと遷移する可能性が考えられる。



図 7 詳細調査地点



写真①(2007/8/ 8:04撮影)

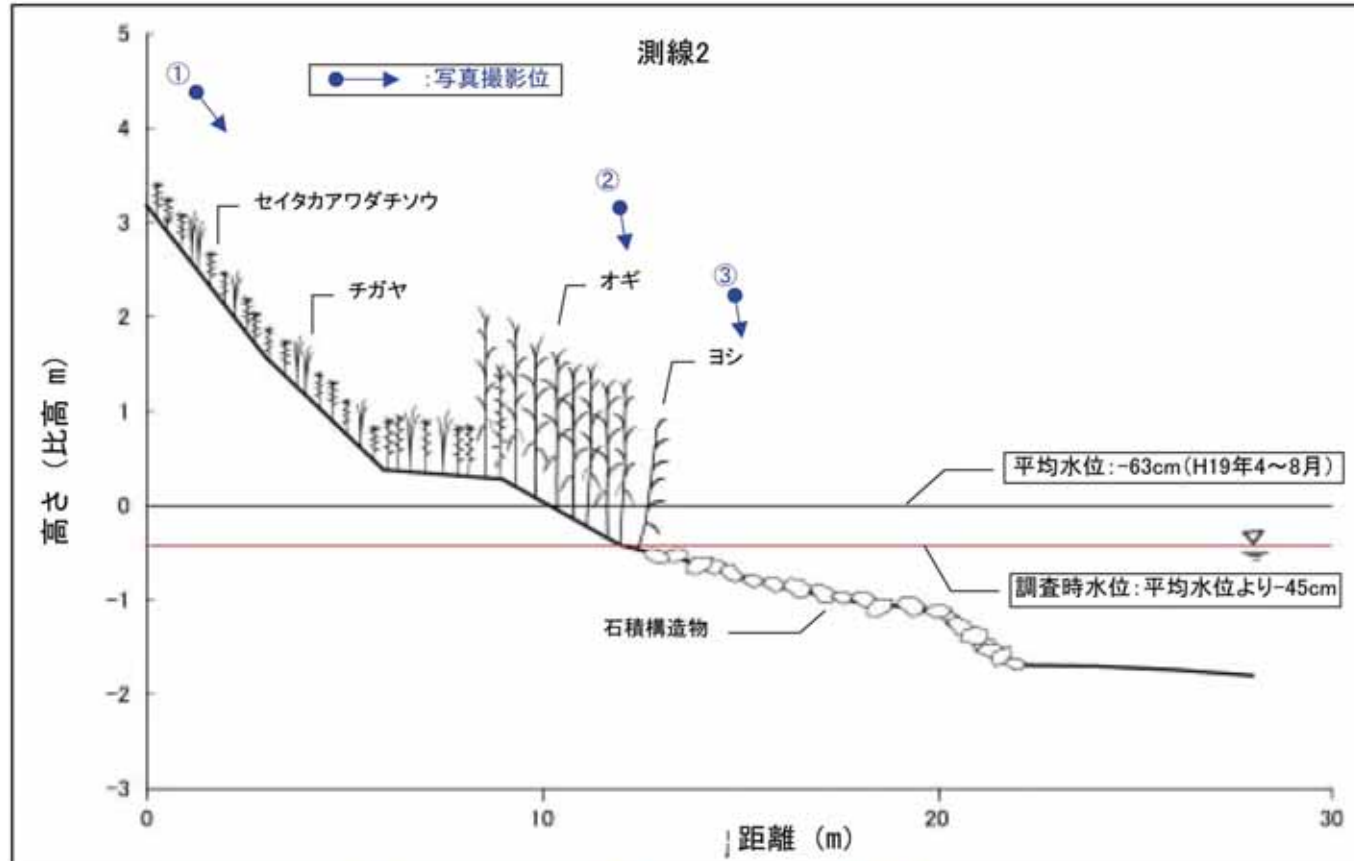


写真②(2007/8/8 9:11撮影)

植生区分	陸生	抽水		抽水	陸生	抽水	
H17 優占種	シバ メリケン	ヨシ	開放水面	マコモ ヨシ	セイタカ メドハギ メリケン チガヤ	セイタカ ヨシ	開放水面
距離(m)	~11 ~16	~34		~122 124 126	~142 ~151 ~164	~176 ~179 ~184	
H18 優占種	セイタカ	ヨシ	開放水面	マコモ ヨシ	セイタカ メドハギ メリケン	セイタカ ヨシ	開放水面
距離(m)	~16.5	~34		~123 124 ~129	~147.5 ~153.2	~176 ~182 ~185	
H19 優占種	セイタカ	ヨシ	開放水面	マコモ ヨシ	セイタカ メドハギ メリケン	セイタカ ヨシ	開放水面
距離(m)	~12	~34		~123 124 ~131	~153 ~161	~176 ~182 ~185	
H17からH19 における植生の 変化の概要	・H17からH18には概ね距離16~34mに抽水植物であるヨシが広がっていたが、H19にはより陸側の距離12mまで分布域が拡大した。		・H17~H19にかけて、水面、水中には植物は確認されなかった。	・距離123m付近の水際~斜面下部では、H17からH19にかけて抽水植物のマコモの分布に大きな変化はみられなかったが、ヨシの分布幅はH17の2mからH19の7mに広がり、拡大傾向が認められた。 ・斜面中部~上部ではH17からH18にかけて陸生植物のセイタカアワダチソウが優占したが、H19には同じく陸生植物であるオギが混生するようになった。平地部では、H18から大きな変化はなく、メリケンカルカヤが優占していた。 ・距離176~185mの斜面上部~水際では、H17からH19まで陸生植物のセイタカアワダチソウ、抽水植物のヨシの分布に大きな変化はみられなかった。			

注1. 高さ(比高)はH19年4~8月の平均水位(-63cm)を基準水面として示した。  
 注2. 植生区分は測線上の優占種の植生区分を表す。  
 陸生: 陸生植物、抽水: 抽水植物  
 注3. 一部の優占種は略記した。  
 メリケン: メリケンカルカヤ、セイタカ: セイタカアワダチソウ

図8 植生断面図(測線1)



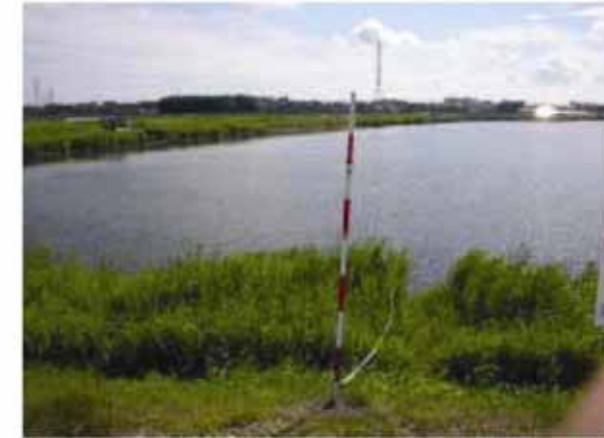
植生区分	陸生			抽水	自然裸地	開放水面	沈水	開放水面	開放水面
H17 優占種	セイタカ	チガヤ	オギ	ヨシ			クロモ オオカナダモ ホザキノフサモ		
距離(m)	~8		~11	~12	~14	~17.8	~19.2		

植生区分	陸生		抽水	自然裸地	開放水面	沈水	開放水面	沈水	開放水面
H18 優占種	セイタカ		オギ	ヨシ		クロモ		クロモ オオカナダモ	
距離(m)	~8		~11	~12	~18	~19.7	20	~22.5	23.5 ~ 25

植生区分	陸生		抽水				開放水面		
H19 優占種	セイタカ		オギ	ヨシ					
距離(m)	~8		~11	~13.5					

H17からH19における植生の変化の概要  
 ・斜面上部～斜面下部では、H17からH19にかけて陸生植物が優占し、H18からはセイタカアワダチソウが優占するようになり、H19には一部でチガヤが混生するようになった。  
 ・水際のヨシはH19にはわずかに拡大したが、草丈・密度が小さい状態であった。  
 ・H17、H18では距離18～25mの水中において沈水植物のクロモ、オオカナダモ、ホザキノフサモが点在していたが、H19にはこれらの生育が確認されなかった。

注1. 高さ(比高)はH19年4～8月の平均水位(-63cm)を基準水面として示した。  
 注2. 植生区分は測線上の優占種の植生区分を表す。  
 陸生: 陸生植物、抽水: 抽水植物、沈水: 沈水植物  
 注3. 一部の優占種は略記した。  
 セイタカ: セイタカアワダチソウ



写真①(2007/8/7 2:59撮影)

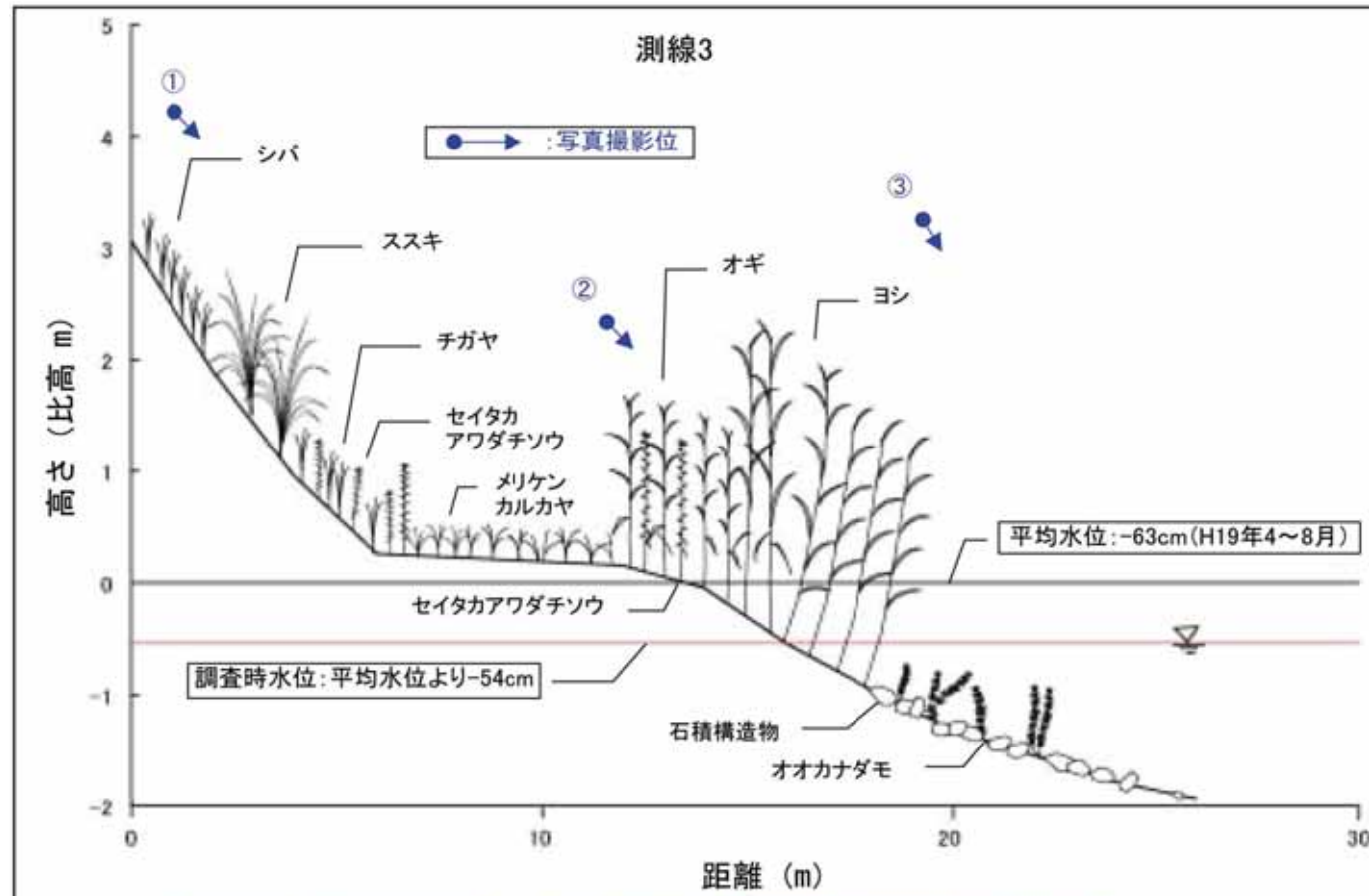


写真②(2007/8/7 3:26撮影)



写真③(2007/8/7 3:27撮影)

図9 植生断面図(測線2)



植生区分	陸生				人工裸地	陸生	抽水	沈水	開放水面
H17 優占種	シバ	ススキ	セイタカ	チガヤ		チガヤ	ヨシ	オオカナダモ	
距離 (m)	~2	~4.2	~6	~7.7	~9.6	~14	~20	~23	
H18 優占種	シバ	ススキ	セイタカ	メリケン	人工裸地	メリケン	ヨシ	オオカナダモ	開放水面
距離 (m)	~2	~4.2	~6	~7.8	8.2	~12	~19	~25	
H19 優占種	チガヤ	ススキ	チガヤ	メリケン		オギ	ヨシ	オオカナダモ	開放水面
距離 (m)	~2	~4.2	~6	~12	~15	~19	~22		
H17からH19における植生の変化の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>斜面では、H17に陸生植物のシバ及びセイタカアワダチソウが分布した箇所で、H19には同じく陸生植物のチガヤが優占するようになった。</li> <li>平地部ではH18から陸生植物のメリケンカルカヤに優占し、大きな変化はみられなかった。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>距離12~15mの水際では、H18には抽水植物のヨシがやや陸側に広がったが、H19には陸生植物のオギが優占するようになり、水際のヨシの分布幅がやや狭まった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>水中では、H18には沈水植物のオオカナダモがやや広がったが、H19にはやや分布が狭まっていた。</li> </ul>	

注1. 高さ(比高)はH19年4~8月の平均水位(-63cm)を基準水面として示した。  
 注2. 植生区分は測線上の優占種の植生区分を表す。  
 陸生: 陸生植物、抽水: 抽水植物、沈水: 沈水植物  
 注3. 一部の優占種は略記した。  
 メリケン: メリケンカルカヤ、セイタカ: セイタカアワダチソウ

図10 植生断面図(測線3)



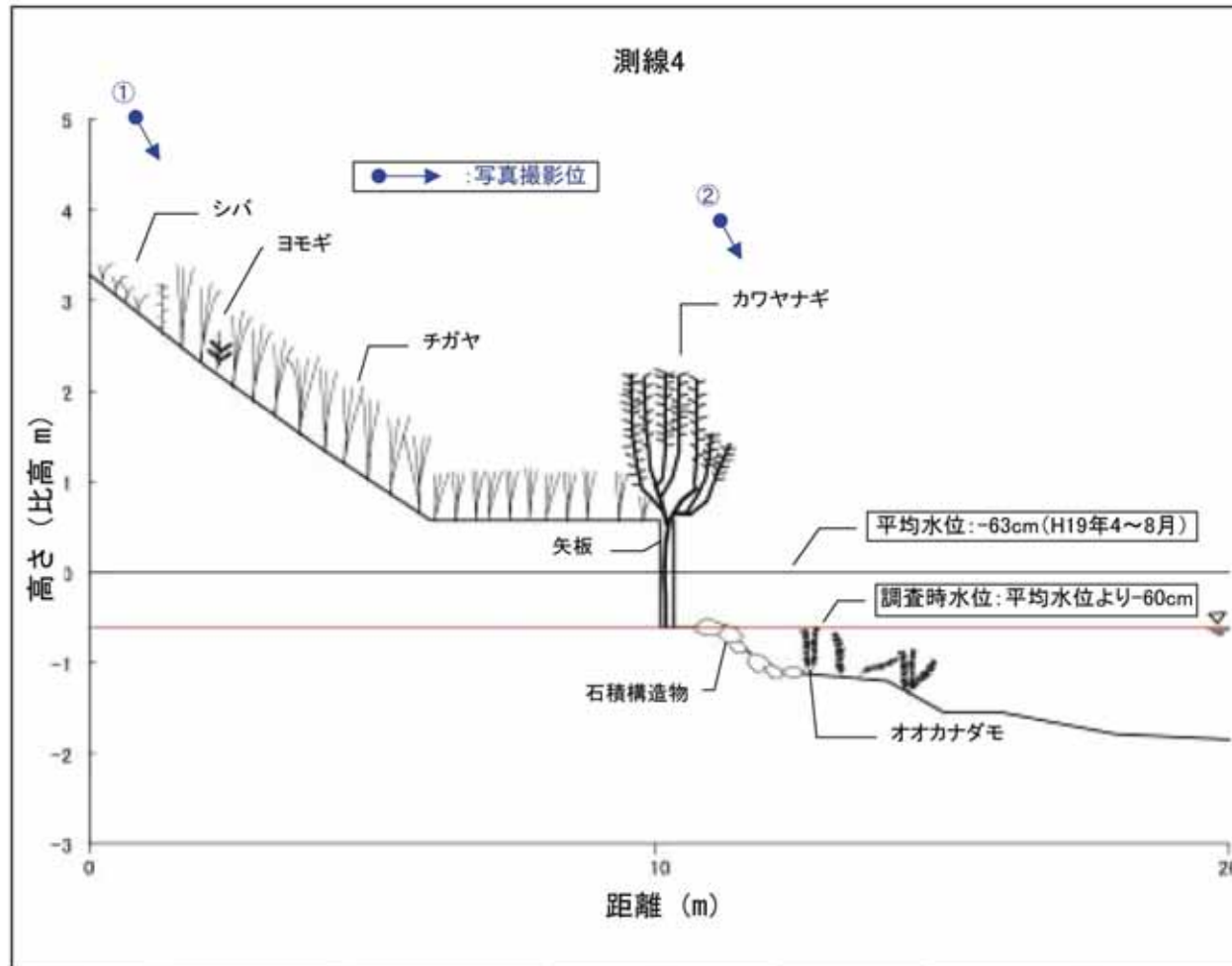
写真①(2007/8/8 14:25撮影)



写真②(2007/8/8 15:10撮影)



写真③(2007/8/8 15:11撮影)



植生区分	陸生				開放水面	沈水	開放水面
H17 優占種	ヨモギ	セイタカ	チガヤ	カワヤナギ		オオカナダモ	
距離(m)	~2	~3.5	~7	~8	~12.5	~14.5	

植生区分	陸生			自然裸地	沈水	開放水面
H18 優占種	ヨモギ	チガヤ	カワヤナギ		オオカナダモ	
距離(m)	~2.5	~7	~8	~11	~15	

植生区分	シバ	陸生		カワヤナギ	自然裸地	開放水面	沈水	開放水面
H19 優占種		チガヤ					オオカナダモ	
距離(m)	~1.5	~8.5	~9.5	~11	~12.5	~15		

H17からH19における植生の変化の概要  
 ・斜面上部~平地では、H17からH19にかけて陸生植物が優占し、H19には大部分でチガヤが優占するようになった。  
 ・なお、湖岸道路の整備により、1.5mほど測線距離が延長していた。

注1. 高さ(比高)はH19年4~8月の平均水位(-63cm)を基準水面として示した。  
 注2. 植生区分は測線上の優占種の植生区分を表す。  
 陸生:陸生植物、沈水:沈水植物  
 注3. 一部の優占種は略記した。  
 セイタカ:セイタカアワダチソウ

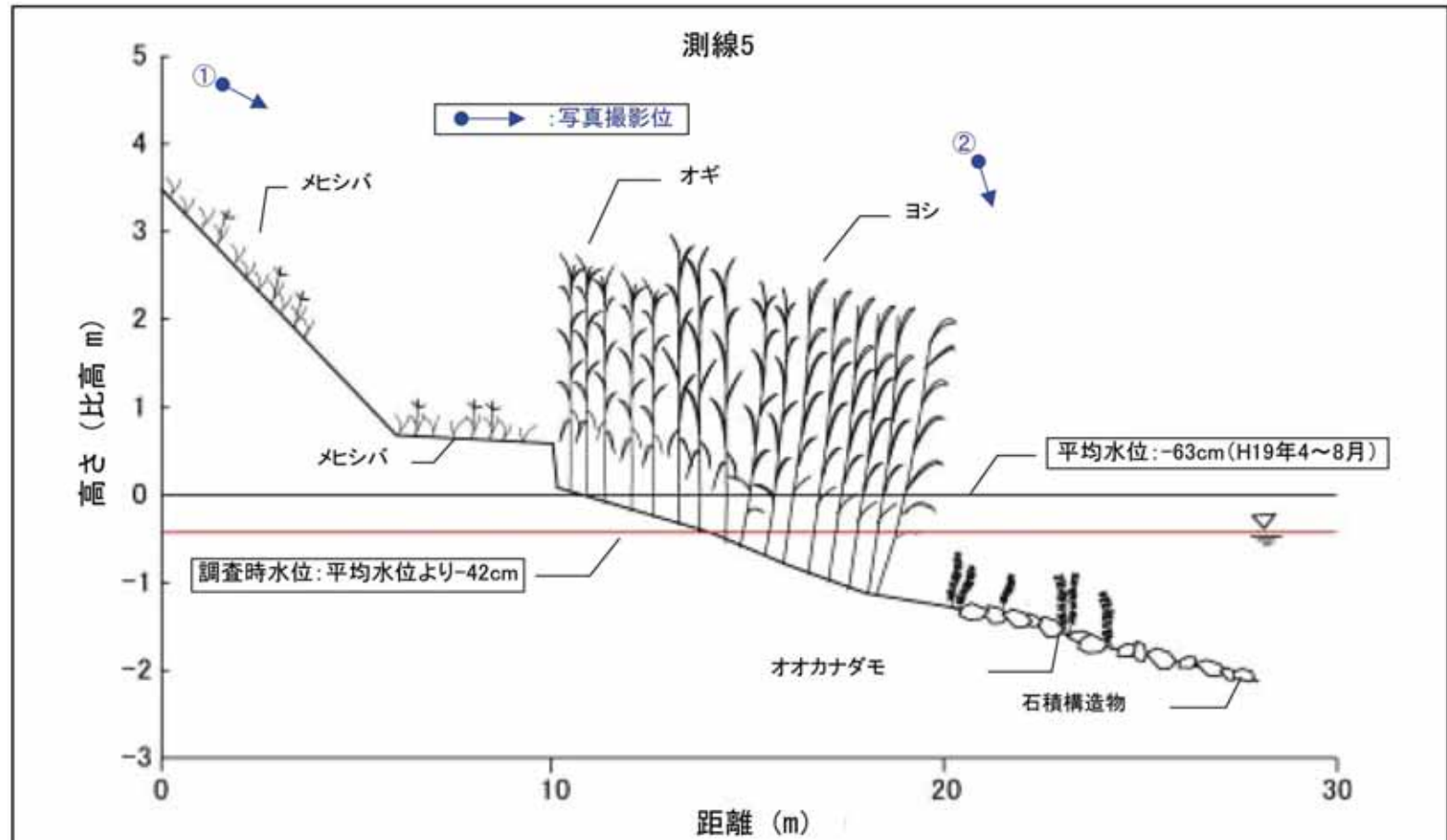


写真①(2007/8/8 13:23撮影)



写真②(2007/8/8 13:36撮影)

図 11 植生断面図(測線4)



植生区分	陸生				抽水	沈水	開放水面	
H17 優占種	チガヤ	コンクリート	チガヤ	セイタカ	オギ	ヨシ	オオカナダモ	
距離 (m)	~4	~7	~8.5	~10.7	~13.5	~19	~28	
H18 優占種	メヒシバ	コンクリート	コスモス	セイタカ	オギ	ヨシ	オオカナダモ	
距離 (m)	~4	~7	~8.5	~10.7	~13.5	~19.5	28.5	
H18 優占種	メヒシバ	コンクリート	メヒシバ	オギ	ヨシ	オオカナダモ		
距離 (m)	~4	~7	~10.7	~13.5	~18.5	~24		
H17からH19における植生の変化の概要	・斜面から水際にかけて、優占種に大きな変化はみられなかった。					・水中では、H17、H18には沈水植物のオオカナダモが広く分布していたが、H19には分布幅が約1/2まで狭まった。		

注1. 高さ(比高)はH19年4~8月の平均水位(-63cm)を基準水面として示した。  
 注2. 植生区分は測線上の優占種の植生区分を表す。  
 陸生:陸生植物、抽水:抽水植物、沈水:沈水植物  
 注3. 一部の優占種は略記した。  
 セイタカ:セイタカアワダチソウ



写真①(2007/8/7 16:07撮影)



写真②(2007/8/7 16:42撮影)

図 12 植生断面図 (測線 5)